

特集

FIX PICS

集中治療後症候群の予防と治療

集中治療後症候群（post intensive care syndrome ; PICS）はICU入室中・退室後そして退院後に生じる身体・認知・精神の障害であり、その家族も精神障害をきたす。米国集中治療医学会によるPICSの提唱から10年が経過した。わが国でも集中治療領域におけるPICSの知名度は高まっており、この領域のホットトピックスとなっている。しかしながら、救急医、とくに集中治療とあまり接点のない救急医の先生方にとっては、PICSについて学ぶ機会はまだまだ多くないかもしれない。

近年、PICSに関する疫学研究は日進月歩で日本からも数多く発表がなされており、PICSの発生頻度やリスクファクターなどが明らかになりつつある。また、PICSの予防や治療においては、早期リハビリテーションやせん妄対策などがバンドル化され、注目されている。一方で、PICSに関する介入研究は少なく、「どのような患者に、どのような介入を、いつどのように行うか」については十分に解明されていないのが現状である。さらに、急性期からのシームレスな栄養療法や口腔・嚥下ケア、ICUからの多職種連携や外来での長期フォローアップも、重症患者の長期予後改善のためには重要な要素であるものの、いずれもエビデンスは不十分で、予後改善に向けた課題は山積している。

そのような状況のなか、「PICSに関する特集を企画してほしい」という依頼を本誌編集部よりいただいた。提案された“FIX PICS”というタイトルは「PICSをいかに治療（FIX）していくか」という今後のPICS研究の方向性を示したもので、まさに妙を得たものであると考える。そこで本特集では、超高齢社会であるわが国におけるPICSの疫学・病態の概要を紹介するとともに、予防・治療に関する最新の知見をわかりやすく解説し、救急・ICU患者の長期予後改善に向けた方策を本誌読者の救急医の先生方に提案したい。

日本におけるPICS研究のフロントランナーによる丁寧な解説が、読者の皆さまのPICSに関する理解/興味を高め、それがひいては、救急医療から集中治療へと続く重症患者の救命、そして予後改善につながることを願っている。